

### ■ マウスピースバズィング

- ・無理矢理、音を出すのではなく「息が勝手に唇を振動させ音になる」感覚を大切にしましょう。
- ・ピアノやチューナーなどで、音を聴きながら音程を取れるようにしましょう。

### ■ 楽器や姿勢について

- ・自分の使っている楽器がFシングル、B<sup>b</sup>シングル、セミダブル、フルダブル等、どのタイプなのか把握しましょう。使用している楽器で指使いも変わるので、分からないことが無いようにしてください。
- ・右手は楽器を支える事と同時に、差し込む向き、角度、割合などにより音程、音色を変化させます。非常に重要なので注意してください。
- ・ホルンは実際の音色のイメージが重要です。また複数人で和音を演奏する機会が多いので、自分が何の音を吹いているのか(人につられない)ように意識してください。

### ■ ウォームアップ(ロングトーン)

- ・身体をその日楽器を吹く状態にするために、ウォームアップをすることがおすすめです。
- ・出しやすい音域から、やわらかい音色でスムーズな息の流れを意識しましょう。

#### パターン1 (JBCバンドスタディ P.16より)



#### パターン2 (JBCバンドスタディ P.16より)



#### パターン3 (JBCバンドスタディ P.17より)



### ■ タンギング

- ・発音が続いても息を流し続け、ロングトーンの音色が崩れないことを目指しましょう。
- ・どんなテンポ、ダブルタンギングなどになってもロングトーンの響きを保ちましょう。

#### F Major [F dur]



### ■ スケール

- ・ホルンは広い音域を演奏します。スケール練習を行い音域を広げるのも重要です。
- ・テンポに合わせて指をテキパキ動かしてください。
- ・様々な調で練習し、吹ける調を増やしましょう。
- ・音域に合わせた息や発音のイメージを持ちましょう。

(例)

高い音ほど息は「速めで、まとめる」  
低い音ほど息は「太めで、あたたかい」

※譜例はJBCバンドスタディ P.34-35

F Major (F-dur)



B<sup>b</sup> Major (B-dur)



※初心者の方は、広い音域は負担があるので、出ない音域は息だけ流して、出る音域になったら復活するなど工夫してください。

### ■ リップスラー

- ・音色の繋がりがスムーズになるようにメトロノームを使いトレーニングしましょう。
- ・上手にできないときは、マウスピースバズィングで「音を滑らかに移行」するようなイメージを試してみてください。
- ・低い音のシラブル、高い音のシラブルなども工夫して練習してみましょう。

■練習例(JBCバンドスタディ P.26より)



※半音ずつ下降



※半音ずつ下降



※半音ずつ下降



※半音ずつ下降